

第1回 高知海岸・県道春野赤岡線 管理技術検討委員会 議事要旨

1. 日時・場所：平成31年3月22日（金）10:30～12:00 高知河川国道事務所 会議室
2. 出席者：荒木、石原、磯部、黒岩、佐藤、野口、原（敬称略、五十音順）
3. 議事要旨

○「空洞の発生要因」について、長期的な砂浜の侵食と波浪の護岸基礎部への短期的な作用が主たる要因ということで良い。ただし、波浪が護岸基礎部だけでなく護岸堤体そのものに作用しており振動圧力も影響している可能性もある。一度の高波浪により空洞が発生したのではなく徐々に堤内の砂が吸い出されたこと、鋼矢板の老朽化も空洞発生に影響したと考えられる。

○矢板は支持力を得るため設置したのか、吸出し防止のために設置したのか等、矢板の設置目的を調べる必要がある。

○空洞箇所の再発防止措置は問題ない。

○「空洞箇所周辺の調査方法」について、今回実施した簡易貫入試験による方法でよい。堤体の粒度を含め材料特性が大切になるので今後状況を整理し示して頂きたい。

○今後砂浜のモニタリングを行っていくことが重要であり、特に固定カメラなどを用いて高頻度でモニタリングを行う仕組みを作ることが望まれる。まずは目視で砂浜のモニタリングをし、侵食が進行している箇所はリアルタイムで監視するなど検討をして欲しい。

○堤防構造について、一体構造、分離構造というものがどのような構造かわかりにくいいため、資料に定義を記載した方が良い。

○空洞の早期察知が重要であるが、指標として砂浜幅等による管理の目安を決めることが大切である。

○対象となる延長が長いので、点データで調査するのではなく、面的に調査する方法がよい。地盤調査ありきではなく、まずは写真等を用いて面的にとらえ、変状があれば詳細に調査を行っていくという段階を踏んでいくと良い。

○今後の検討のなかで短期的、長期的な視点両方を行っていくことが重要である。

○堤防の空洞は世界的に問題となっている。空洞に関する他事例を収集するとともに、高知海岸の事例が今後世界に発信できるような成果になると良い。

以上